

# 室蘭工業大学-学報

NO.642



学位記授与式の様子  
(1ページに関連記事あり)

2023年4月号

# 目次

## ◇ トピックス ◇

令和4年度 学位記授与式を挙行	1
G7ゼロカーボンミーティング洞爺湖でパネル展示に参加	3
第2回コンピュータ科学トップランナーセミナーを開催	4
エアターボ・ラムジェットエンジンガスジェネレーター燃焼試験を実施	5
白糠未来共創会議を白糠町サテライトオフィスで開催	6
START UP2023 学内ベンチャー育成塾イベントを開催	7
北海道札幌工業高等学校と高大連携に関する協定を締結	8
TEAM「ゼロカーボンいぶり」セミナーに参加	9
レアアースを利用した大学オリジナルワイングラスを大学生協にて発売	10

## ◇ 情報・資料 ◇

地方創生研究開発センター「プレ共同研究」の採択	11
-------------------------	----

## ◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ	12
奨学寄附金の受入れ	13

## ◇ 人 事 ◇

人事異動	14
訃報	24

## ◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催	25
-------------	----

## ◇ 日 誌 ◇

学内行事	26
学外行事	26

## 令和4年度 学位記授与式を挙行

工学部第71回及び理工学部第1回並びに大学院博士前期課程第57回及び大学院博士後期課程第31回学位記授与式を、令和5年3月23日(木)本学体育館において挙行了ました。今年度は4年ぶりに保護者の参列のなか学部と大学院に分けて学位記授与が行われ、続いて空閑良壽学長から次のとおり告辞が述べられました。

### 告辞

今年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響で学部と大学院を分けた学位記授与式となりました。学部卒業生の皆さん、そしてご家族の皆様、4年ぶりにご出席いただくことが実現し、大変嬉しく思います。さて今年度は、理工学部になって第1期の卒業生の皆さんが誕生します。本日、晴れて本学を卒業し学士(工学)418名、そして学士(理工学)の学位を得られた方は192名、合わせて610名、そして卒業生の中には外国人留学生が33名おられます。学位の取得並びに卒業を心からお祝い申し上げます。また皆さんの入学から今日まで、修学を励まし支えてこられたご家族並びに関係者の方々に敬意とご祝辞を申し上げます。学位記授与に当たり、卒業生の皆さんに、私からの期待とメッセージを述べさせていただきます。

皆さんは3年を超える長期間にわたって、コロナ禍で学修に励まれてきました。本学においても、オンライン教育の強みも取り入れた形の対面とリモートのハイブリッド型の授業や研究室活動を余儀なくされる時間が多くございました。理工系の大学では、やはりキャンパス内での対面での実験、実習及び教育が最重要と考えています。この間に本学においても、DXが進行し、リモートやオンライン環境を整えた場での、教育・研究活動が行われ、産業界や社会においても、コロナが落ち着いた後にも、引き続き、ニューノーマルでの活動形態となると思われれます。ここでは、皆さんは本学で培った対応力が問われることになるでしょう。リモートやオンライン環境の下での、皆さんの学修やキャンパスでの活動は、周りに協働してくれる仲間がいなかったり、指導する教員や職員との直接的な接触の機会が少なくなりました。その結果、自ら能動的に学修や行動を起こす、自律的な活動が大変重要となり、そのような対応ができる皆さんと不得意な方との間に、新たな格差が広がってしまうという課題が浮かび上がりました。実は、これは学生諸君だけではなく、教職員全体に対しても同様な課題であります。

卒業生の皆さんの約60%は就職という形で、本学から

新たな社会・産業界という荒波のなかに旅立つことになります。大学という社会からプロテクトされた学びの環境から、社会・産業界という先が見えにくく、より対応力が求められ、自律した能動的な活動が求められる環境へと飛び込んで行くことになります。皆さんは、その十分な覚悟と準備が整っているでしょうか。まして、今後のポストコロナの時代に向けては、先ほど述べましたようにこれまで以上に対応力が問われます。今後、皆さんが遭遇する課題・問題には、例えばコロナ禍の対応のようにどのような手段・対策が正解なのか、そもそもどのような「解」があるかわからない課題が待ち受けています。これは残りの40%強の大学院博士前期課程に進学される皆さんも同様です。

皆さんは、新型コロナウイルス対策下のリモートと対面のハイブリッドな環境で、授業、卒業研究を進めてこられました。制限がかかった状況での大変な努力のもと、卒業研究を筆頭とする課題に取り組んだ経験は、皆さんにとって、きっと大変貴重な体験であり、かつ宝となって返ってきます。答えがあるかどうかすらわからない問題・課題と立ち向かい、答えに近づく、チャレンジすることを大変な勇気を持って経験されたことと思います。この皆さんの経験を是非、今後の活動に活かしてください。

人生の先輩の一人として、私の経験を一つ、二つご紹介いたします。私は室蘭工業大学に1996年に当時の応用化学科に助教として着任しましたが、副学長時代も含めると大学執行部の仕事の方が14年と長くなり、その間、本学の様々な計画・施策の実施に携わってきました。皆さん、EBPMという言葉をご存知ですか？私は大学運営に関して、極力、EBPM (Evidence Based Policy Making) を心がけていました。確かなエビデンスが示せて、プラスになる成果や実現可能性が高い計画の立案と実施を心がけることで、教職員の皆さんに計画を納得いただいた上で、その協力を期待できることからです。

私の専門は化学工学でしたが、学生時代に卒業研究や修士論文の研究で、手法として確率統計を用いる必要性があり、独学で確率統計を一生懸命勉強しました。それがきっかけで、本学においても教員として、当時の応用化学の学生さんに対して、確率統計の授業を持てるくらいには、身につけることができました。あと10年、教授時代(研究も行う期間という意味ですが)が長ければ、AIやビックデータの取り扱いも勉強して、研究に活かせるのではないかなと思っていて、現在の先生方が羨ま

## トピックス

しにくいですが、私の場合は、「確率統計」の勉強止まりですが、それでも大学運営上の、EBPM (Evidence Based Policy Making) には十分に役に立っていると思います。人生100年時代です。学び直しも重要ですが、それでもやはり若い頃に学んだ、とりわけ卒業論文や大学院での研究のために自ら学んだ、化学とは直接関係がない、確率・統計学・情報の基礎はいまだに大変役に立っています。学生時代の経験を活かしたEBPMですね。皆さんも、本学での貴重な経験と身につけた専門知識を一つのベースとして、社会で活躍するために、さらに専門を深めたり、あるいは幅を拡げ、新たな先端分野を学んだり、社会・産業の状況に応じて学び続けて、これからの人生を有意義に過ごすための準備をしてほしいと思います。このように、一つ目は、皆さんもEBPMの考え方を取り入れて計画、実行してほしいということです。

もう一つの大事なこととして、最近私が力を入れている大学の広報を通して感じていることですが、自分の強みを知り、上手に発信して行くということです。皆さん、本学の強みはなんだと思いますか？私が一生懸命発信しているのは、本学の強みは「確かな研究力をベースとした教育力」です。

主に研究の観点からは、THEの世界大学ランキングには、国立大学は57校がランクインし、本学は5年連続のランクイン (1501+位) となりました (2022.10発表)。また嬉しいことに、QSアジア大学ランキングにおいても、本学は2年連続でランクイン (451~500位) しました (2022.11発表)。この2つ世界の代表的大学ランキングにランクインしている大学は、道内では本学と北海道大学の2大学のみであり、本学教員の研究力が光っています。また本学卒業生の企業からの評価も高く、企業の人事担当者から見た大学イメージ調査においては、北海道内の大学で第3位となっています (日経HR2023版)。さらに自分の子どもに入学してほしい大学ランキング、北海道・東北地域で第5位 (朝日新聞出版「AERAムック」大学ランキング2023) と、まさに、エビデンスに基づいた「確かな研究力をベースとした教育力」の成果の

ひとつだと考えます。このような確かな研究力に支えられた教育力を、学生諸君や同窓会の皆様など多くの人の力もお借りして、上手に発信して行くことが、重要だと考えています。

本日は学位記授与式なので、少し観点がずれてしまうかもしれませんが、私は室蘭工業大学にとって、優秀な入学志願者の確保は第一優先課題と捉えています。今年の (昼間コース) 4月入学者の志願倍率は、手元にデータがある過去20年間の中で、ダントツの最高倍率となりました。詳しい分析はこれからですが、道外志願者の増加が大きなライビングフォースとなっています。本学のブランド力のupとそれに気づいてもらうための広報が上手く噛み合った一つの成果と捉えています。このことは、少しずつですが、本学の強みを上手く広報・発信し、本学の志願者予備軍に伝えることができてきて、道内のみならず、道外の志願者層に届き始めていると期待しているところです。

最後になりますが、皆さんの周りにはたくさんの応援団、仲間がいます。

本学の同窓生は皆さんも加えると既に述べ40,000人に達しており、産業界・社会で実績を残して、活躍している先輩たちが皆さんを温かい目で見守っています。この歴史ある卒業生の社会での活躍とそこからの応援、そして室蘭工業大学で共に学んだ皆さんの経験こそが、これからの皆さんの力となります。

室蘭工業大学は、これからも皆さんと共に、日本のそして世界の輝かしい未来を築くべく、教育と研究そして社会への貢献を大きな柱として歩みます。皆様のご健勝とこれからの輝かしい未来でのご活躍を祈念し、学長告辞といたします。

令和5年3月23日

室蘭工業大学学長 空閑 良壽



## G7ゼロカーボンミーティング洞爺湖でパネル展示に参加

2月25日(土)に洞爺湖万世閣ホテルレイクサイドテラスで開催された「G7ゼロカーボンミーティング洞爺湖」にTEAM「ゼロカーボンいぶり」の一員としてパネル展示に参加しました。本学の脱炭素関連の研究を行って

いる室蘭+脱炭素Taskforce長の山中真也准教授とクリエイティブコラボレーションセンター・カーボンポジティブラボ長の馬渡康輝准教授が参加し、来場者に対して本学の取組みを説明しました。



ゼロカーボンいぶりの出展者  
(上段右から3番目) 室蘭+脱炭素Taskforce長 山中真也准教授  
(下段右から2番目) カーボンポジティブラボ長 馬渡康輝准教授



来場者に説明する山中真也准教授

## 第2回コンピュータ科学トップランナーセミナーを開催

コンピュータ科学トップランナーセミナーの第2回目を、3月13日(月)に本部棟3階大会議室とオンラインのハイブリッド形式で開催し、会場及びオンラインで約95名が参加しました。今回は、東京都立産業技術大学院大学学長、東京都立大学法人副理事長の橋本洋志氏を講師に招き、「人×人工物×DX学習～認知科学、学習論、理工学の視点～」と題して、独創性の考え方や技能学習のDX化など、本学博士課程学生にとって大変示唆に富む内容を講演いただき、参加者は興味深く聴き入っていました。講演後の質疑応答では、会場の参加者からの質問に対して丁寧な説明があり、セミナーは盛況のうちに終了しました。



講演する橋本氏

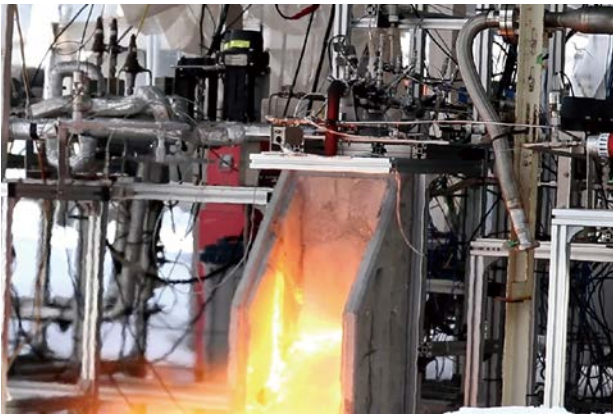
## エアターボ・ラムジェットエンジン ガスジェネレーター燃焼試験を実施

本学の航空宇宙機システム研究センターにおいて学内で開発中のエアターボ・ラムジェットエンジン（GG-ATR）ガスジェネレーター燃焼試験を白老実験場にて実施しました。

過去最長となる60秒の燃焼試験において定格の100、90、80、70%スロットリングを段階的に実施し、スムーズな遷移となるシーケンスを確立しました。

また、長秒時の燃焼を行うにあたり、不着火判定・温度・圧力超過等の自動非常停止判定を担うシステムやデータ収録については新規機材を投入しての二重冗長を組み、万全を期した運用を実現しました。

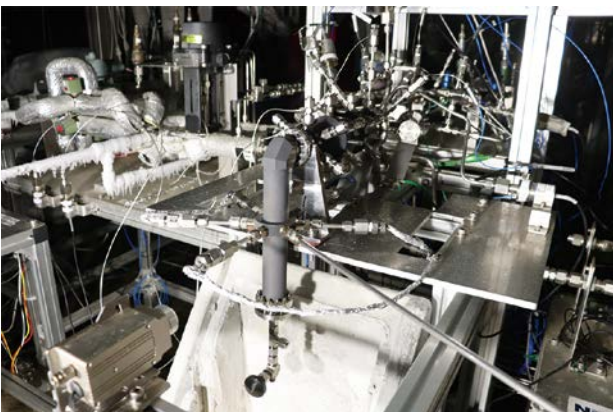
今後は、ターボ系と組み合わせた熱走試験において、今回確立したシーケンスを活用していく予定です。



ガスジェネレーター60秒スロットリング試験 Fire19  
(酸化剤：液体酸素 燃料：エタノール)



Fire19 保安集合写真



燃焼後のガスジェネレーター本体



試験工程時の様子（計測棟）

## 白糠未来共創会議を白糠町サテライトオフィスで開催

室蘭工業大学は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）の代表機関として、令和4年10月25日（火）からプロジェクトを開始しました。

本プロジェクトでは地域のビジョンづくりから深い連携が求められており、地域での活動を進めるための拠点が必須となることから、白糠町サテライトオフィスを白糠高校校内に設置しました。

令和5年3月16日（木）、白糠町サテライトオフィスで

は初めて、白糠未来共創会議を開催し、白糠町の一次産業関係者を含む約40名が出席しました。

会議では、白糠町の一次産業に従事される皆様と豊かなまちづくりについてワークショップ形式で意見交換や課題の抽出を行いました。拠点ビジョン「アイヌの知恵が導く、人々が集い住みたくなる豊かな『食のまち』」について、「豊かなまち」「住みたくなるまち」のありたい姿と現実とのギャップを深掘りするとともに、白糠町の産業振興と未来創生を検討しました。



徳楽教授と参加者



豊かなまちづくりについて意見交換する様子



白糠高校校舎に室蘭工業大学白糠町サテライトオフィスを設置





## START UP2023 学内ベンチャー育成塾 プレイベントを開催

START UP2023 学内ベンチャー育成塾プレイベントを、3月20日(月)に大学会館多目的ホールで開催し、学生13名が参加しました。

講師には、エレベート株式会社代表取締役/マサチューセッツ州立大学Lowell校MBA講師の大前和徳氏、パナソニックITS株式会社代表取締役の田辺孝由樹氏、同社室蘭開発室室長の佐藤慎吾氏を講師に招き、スタートアップに関する2件の講演を実施しました。

大前氏の講演では、「Entrepreneurship and Innovation」と題して、グループワークを交えながら、イノベーションやアントレプレナーシップの基礎、起業家のアプローチなどを分かりやすくご講演いただきました。田辺氏と

佐藤氏のご講演では、「パナソニックITSの夢プロジェクトによる実践例」と題して、会社紹介、室蘭「いってきマース」の紹介、ビジネスモデルキャンパスの実践などについて、ご講演いただきました。講演終了後には、田辺氏から受講者に対して名刺交換の呼びかけがあり、受講した学生にとっては、ビジネスの第一線で、スタートアップに携わる田辺氏と交流する貴重な機会となりました。

本イベントは、科学技術振興機構（JST）スタートアップ・エコシステム形成支援（START）事業の支援を受けて、実施したものです。



参加者の発表を聞く大前氏



講演する田辺氏



講演する佐藤氏



参加した学生と名刺交換する田辺氏

## 北海道札幌工業高等学校と高大連携に関する協定を締結

令和5年3月22日(水)、本学と北海道札幌工業高等学校は「高大連携に関する協定」を締結しました。

北海道札幌工業高等学校は、「重厚・堅実」の校訓のもと、豊かな人間性と広い視野を持ち、進んで社会に貢献する心身共に健全な工業人の育成に努めており、また、令和2年度～令和4年度まで、北海道の将来を支えるものづくり人材の育成を目的とした実践的職業教育推進事業（専門高校フューチャープロジェクト）の研究指定校となり、大学や企業等との連携による実践的な職業教育を進めてきました。

本学においても、この事業の実施にあたって、協議会への参加、高校の教員向けセミナーの実施、生徒への最先端技術の講義の提供など全面的な協力を行ってきました。

このような背景のなか、高大連携事業の実施による交流・連携を通じて、理工系分野の更なる興味・関心を高め、工業高校から工業大学への学びの移行を積極的に推進し、また、教職員相互の交流や研修を進めて、相互の教育と研究の発展と活性化を図り、更に北海道の将来を支えるものづくり人材の育成に寄与することを目的として高大連携に関する協定を締結しました。

本学は、この度の協定締結により、これまで培ってきた連携関係を一層発展させ、高大接続の新たな可能性を探り、理工系分野の興味や関心を高め工業高校から工業大学への学びの移行を推進し、理工系分野の進学を増やしたいと考えています。

本学と高校との協定は、今回で2件目となります。



室蘭工業大学空閑学長(左)と北海道札幌工業高等学校太田校長



協定締結式の様子

## TEAM「ゼロカーボンいぶり」セミナーに参加

2023年3月23日(木)に、グランドホテルニュー王子(苫小牧市)で開催されたTEAM「ゼロカーボンいぶり」セミナーに、山中真也准教授/室蘭+脱炭素Taskforce長が基調講演の講師及びパネルディスカッションのコーディネーターとして、馬渡康輝准教授/クリエイティブコラボレーションセンター・カーボンポジティブラボ長がパネルディスカッションのパネラーとして参加しました。

山中准教授の講演では、「胆振地域における再生可能エネルギーの未来」と題して、環境省などの公表資料のデータを基に分析した結果を交えながら、胆振地域の再エネ導入実績は「道内1位」であり、伸びしろが大きい

こと、一方で、今後のさらなる導入に向けては太陽光パネルのリサイクルや木質バイオマス発電で生じる燃焼灰の活用といったライフサイクル全体を考慮することが大切であることなどの説明があり、参加者は興味深く聞いていました。

パネルディスカッションでは、馬渡准教授から、カーボンポジティブやスロウカーボンの考え方についての紹介やラボの具体的な活動としてスマートウィンドウに関する研究の進捗状況などについて、説明がありました。

本学は、TEAM「ゼロカーボンいぶり」の一員として、今後もこのような活動を通じて、胆振地域や北海道における脱炭素に貢献する活動を行ってまいります。



講演する山中真也准教授/室蘭+脱炭素Taskforce長



山中准教授の講演を聴く参加者



パネルディスカッションの様子



説明する馬渡康輝准教授/クリエイティブコラボレーションセンター・カーボンポジティブラボ長

## レアアースを利用した大学オリジナル ワイングラスを大学生協にて発売

室蘭工業大学希土類材料研究センターがプロデュースし、深川硝子工芸（小樽市）が製品化した大学オリジナルワイングラスを令和5年3月23日（木）から室蘭工業大学生生活共同組合で販売を開始しました。

ワイングラスはペアでの販売で、レアアース（希土類）を混ぜ込んだ工芸ガラスとなっており、特定の光を吸収する性質があるため、グラスは太陽光では紫色ですが、蛍光灯の下では一瞬で水色に変わるという特性があります（Nd（ネオジウム）の特性）。



（左）Nd（ネオジウム）グラス  
（右）Pr（プラセオジウム）グラス

## 地方創生研究開発センター「プレ共同研究」の採択

令和4年度地方創生研究開発センタープレ共同研究公募の結果、次のとおり採択されました。

本事業は、本学教員と民間機関等との研究者が、次年度以降において民間機関等との共同研究へ発展させるための前段階に相当する共同研究に対して助成を行うものです。

研究代表者・職・氏名	民間企業等	採択金額（千円）
もの創造系領域 教授 風間俊治	油研工業(株)	500
しくみ解明系領域 助教 島津昌光	北海道三井化学(株)	500
しくみ解明系領域 教授 近藤敏志	苫小牧栗林運輸(株)	500
合 計（3件）		1,500

## 外部資金

## 民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 清水 一道	中 小 企 業	1,500
もの創造系領域 教授 清水 一道	中 小 企 業	1,500
もの創造系領域 准教授 安 藤 哲 也	中 小 企 業	2,112
合 計 (3 件)		5,112

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

## 奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額(千円)
個人寄附者(1件)	工学教育助成	10
株式会社OEC	工学研究助成	500
スチールプランテック株式会社	工学研究助成	500
公益財団法人電気通信普及財団	工学研究助成	1,500
公益財団法人電気通信普及財団	工学研究助成	1,200
株式会社クリーンアップ	工学研究助成	200
株式会社ドーコン	工学研究助成	500
株式会社キグチテクニクス	工学研究助成	618
個人寄附者(1件)	工学研究助成	700
合計(9件)		5,728

## 人 事

## 人 事 異 動

国立大学法人  
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和5年3月31日	〈定年退職〉	高 野 英 明	大学院工学研究科教授 (しくみ解明系領域)
		松 本 ますみ	大学院工学研究科教授 (ひと文化系領域)
		末 田 靖	監査室長 兼務：監査室係長（監査係）
令和5年3月31日	〈任期満了〉	那 須 守	大学院工学研究科特任教授 (もの創造系領域) 兼務：社会連携統括本部
		岸 上 順 一	大学院工学研究科特任教授 (しくみ解明系領域)
		小 島 晶 夫	大学院工学研究科特任教授 (ひと文化系領域) 兼務：アドミッションオフィス
		丸 山 秀 人	大学院工学研究科特任准教授 (ひと文化系領域) 兼務：キャリア・サポート・センター
令和5年3月31日	〈辞 職〉	中 里 直 史	大学院工学研究科助教 (しくみ解明系領域)
令和5年3月31日	〈辞 職〉(転出)	郷 路 健 二	事務局次長・学長補佐
	北海道教育大学総務企画部長	佐 藤 康 幸	経理課長
	帯広畜産大学事務部管理課長	渡 邊 秀 雄	学務課長
	函館工業高等専門学校総務課長	菊 地 隆 憲	総務広報課図書学術情報室係長 (学術情報係) 兼務：総務広報課図書学術情報室係長（運用係）
	北海道大学附属図書館管理課係長 (図書受入・目録担当)		



人 事

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
	<b>〈任 命〉</b>		
令和5年4月1日	理事（総務・学術担当）（任期R6.3.31）	松 田 瑞 史	理事（総務・学術担当）
	理事（評価・財務担当）（任期R6.3.31）	佐 藤 孝 紀	理事（評価・財務担当）
	理事（研究・連携担当）（任期R6.3.31）	船 水 尚 行	理事（研究・連携担当）
	<b>〈採 用〉（転入）</b>		
令和5年4月1日	大学院工学研究科教授（もの創造系領域）	谷 口 円	北海道立総合研究機構本部研究戦略部 連携広報グループ主幹
	大学院工学研究科教授（ひと文化系領域）	伊 藤 弘 子	名古屋大学大学院法学研究科学術研究員
	大学院工学研究科准教授（もの創造系領域）	趙 越	豊田工業大学工学研究科 ポストドクトラル研究員
	大学院工学研究科助教（もの創造系領域）	莊 司 成 熙	東京工業大学ゼロカーボンエネルギー研究所研究員
	大学院工学研究科助教（しくみ解明系領域）	寺 岡 諒	熊本大学大学院人文社会科学研究所特別研究員 日本学術振興会特別研究員PD
	大学院工学研究科特任教授（しくみ解明系領域） 兼務：MONOづくりみらい共創機構	内 山 智 幸	北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部 ものづくり支援センター センター長
	大学院工学研究科特任教授（ひと文化系領域） 兼務：アドミッションオフィス	三 条 歩	北海道旭川東高等学校校長
	事務局次長	長 川 英 樹	国立高等専門学校機構本部事務局総務課長
	総務広報課長	山 本 渉	帯広畜産大学事務部企画総務課長
	経理課長	岩 部 順	北海道大学医学系事務部会計課課長補佐
	総務広報課図書学術情報室係長（学術情報係） 兼務命：総務広報課図書学術情報室係長（運用係）	佐々木 翼	北海道大学附属図書館研究支援課（医系グループ・医学系図書担当）
	事務局付係員	芥 川 広 樹	
	事務局付係員	安 彦 賢	
	事務局付係員	来 山 優 太	
	事務局付係員	練生川 潤 一	
	監査室再雇用職員（監査係）	末 田 靖	監査室長 兼務：監査室係長（監査係）

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和5年4月1日	<p style="text-align: center;"><b>〈出向復帰〉</b></p> 総務広報課係員（人事企画係）	長濱谷 圭 汰	北海道大学総務企画部人事課 (共済担当)
令和5年4月1日	<p style="text-align: center;"><b>〈昇 任〉</b></p> 大学院工学研究科教授（もの創造系領域） 大学院工学研究科教授（もの創造系領域） 大学院工学研究科准教授（しくみ解明系領域） 学務課長 経営企画課副課長 経営企画課係長（評価分析係）	梶 原 秀 一 廣 田 光 智 小 林 洋 介 千 代 恒 弥 齊 藤 雅 利 田 嶋 学	大学院工学研究科准教授 (もの創造系領域) 大学院工学研究科准教授 (もの創造系領域) 大学院工学研究科助教 (しくみ解明系領域) 学務課副課長 経営企画課係長（評価分析係） 経営企画課主任（評価分析係）
令和5年4月1日	<p style="text-align: center;"><b>〈配置換〉</b></p> 学務課副課長 兼務命：研究協力課副課長（期間：令和5年6月30日まで） 総務広報課主任（秘書係） 経営企画課主任（評価分析係） 総務広報課図書学術情報室主任（学術情報係）	養 田 学 伊 藤 綾 香 一 家 ひとみ 福 山 友以佳	研究協力課副課長 総務広報課主任（総務広報係） 総務広報課主任（人事企画係） 学務課主任（教務企画係）
令和5年4月1日	<p style="text-align: center;"><b>〈任用更新〉</b></p>	岸 徳 光 相 津 佳 永 樋 口 健	大学院工学研究科特任教授 (もの創造系領域) 兼務：寄附講座・社会基盤管理 工学講座 大学院工学研究科特任教授 (もの創造系領域) 兼務：キャリア・サポート・セ ンター 大学院工学研究科特任教授（東 京事務所）



発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
	MONOづくりみらい共創機構副機構長 (任期：R6.3.31)		
	副学長 (任期：R6.3.31)	大 川 鉄 也	
	教育研究評議会評議員 (任期：R6.3.31)		
	経営協議会委員 (任期：R6.3.31)		
	学長補佐 (任期：R6.3.31)	花 島 直 彦	
	学長補佐 (任期：R6.3.31)	吉 田 雅 典	
	学長補佐 (任期：R6.3.31)	河 合 秀 樹	
	地域連携人材育成センター長 (任期：R6.3.31)		
	学長補佐 (任期：R6.3.31)	川 村 志 麻	
	保健管理センター所長 (任期：R6.3.31)	岩 田 実	
	キャリア・サポート・センター長 (任期：R6.3.31)	相 津 佳 永	
	航空宇宙機システム研究センター長 (任期：R6.3.31)	内 海 政 春	
	希土類材料研究センター長 (任期：R6.3.31)	関 根 ちひろ	
	MONOづくりみらい共創機構副機構長 (任期：R6.3.31)	吉 成 哲	
	コンピュータ科学センター長 (任期：R6.3.31)	太 田 香	
	研究基盤設備共用センター長 (任期：R6.3.31)	中 野 英 之	
	クリエイティブコラボレーションセンター長 (任期：R6.3.31)	徳 樂 清 孝	
	情報教育センター長 (任期：R6.3.31)	桑 田 喜 隆	
	もの創造系領域長 (任期：R6.3.31)	今 井 良 二	
	教育研究評議会評議員 (任期：R6.3.31)		
	経営協議会委員 (任期：R6.3.31)		
	しくみ解明系領域長 (任期：R6.3.31)	チャン ヨン Chol	
	教育研究評議会評議員 (任期：R6.3.31)		
	ひと文化系領域長 (任期：R6.3.31)	前 田 潤	
	教育研究評議会評議員 (任期：R6.3.31)		
	理工学部創造工学科長 (任期：R6.3.31)	寺 本 孝 司	
	教育研究評議会評議員 (任期：R6.3.31)		
	理工学部システム理化学科長 (任期：R6.3.31)	塩 谷 浩 之	
	教育研究評議会評議員 (任期：R6.3.31)		

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
	経営協議会委員（任期：R6.3.31） 大学院工学研究科博士前期課程環境創生工学系専攻長（任期：R6.3.31） 教育研究評議会評議員（任期：R6.3.31）	市 村 恒 士	
	大学院工学研究科博士前期課程生産システム工学系専攻長（任期：R6.3.31） 教育研究評議会評議員（任期：R6.3.31） 経営協議会委員（任期：R6.3.31）	戎 修 二	
	大学院工学研究科博士前期課程情報電子工学系専攻長（任期：R6.3.31） 教育研究評議会評議員（任期：R6.3.31）	渡 邊 浩 太	
	<b>〈兼 務〉</b>		
令和5年4月1日	大学院工学研究科教授（しくみ解明系領域） 兼務：コンピュータ科学センター	太 田 香	大学院工学研究科教授 （しくみ解明系領域） 兼務：社会連携統括本部
	大学院工学研究科准教授（もの創造系領域） 兼務：地域連携人材育成センター	柴 田 義 光	大学院工学研究科准教授 （もの創造系領域） 兼務：社会連携統括本部
	施設課主任（施設企画係） 兼務命：経理課主任（調達係） （期間：令和6年3月31日まで）	成 谷 道 生	施設課主任（施設企画係） 兼務：経理課主任（調達係）
	<b>〈兼務免〉</b>		
令和5年4月1日	大学院工学研究科准教授（しくみ解明系領域）	馬 渡 康 輝	大学院工学研究科准教授 （しくみ解明系領域） 兼務：希土類材料研究センター
	<b>〈定年退職〉</b>		
令和5年3月31日		橋 詰 奈緒子	ロボットアリーナ 事務補佐員 （支援職員）
		田野中 広 美	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員（支援職員）
	<b>〈雇用期間満了〉</b>		
令和5年3月15日		野 村 未 希	大学院工学研究科 事務補佐員

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和5年3月31日		DEBNATH MITHUN KUMAR	大学院工学研究科 博士研究員
		BEGUM ZUBEDA	大学院工学研究科 博士研究員
		NGUYEN DUC VAN	大学院工学研究科 博士研究員
		BURAPORN PONG SIREE	大学院工学研究科 博士研究員
		BAAR STEFAN	クリエイティブコラボレーションセンター 博士研究員
		上 野 香 織	大学院工学研究科 学術研究員
		宮 入 奈緒枝	大学院工学研究科 技術補佐員 (研究推進支援員)
		浅 野 美 紀	大学院工学研究科 技術補佐員
		篠 原 未 来	クリエイティブコラボレーションセンター 技術補佐員
		佐 藤 千 尋	大学院工学研究科 事務補佐員
		松 原 みづほ	大学院工学研究科 事務補佐員
		宗 成 美	大学院工学研究科 事務補佐員
		小野寺 麻姫子	航空宇宙機システム研究センター 事務補佐員
		武 内 琢 哉	広報室 特定専門職員
		池 野 佳 奈	総務広報課 事務補佐員
		加 藤 由 実	総務広報課 事務補佐員
		山 形 香 里	総務広報課(男女共同参画推進室) 事務補佐員
		清 水 琉 生	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		平 井 望 丘	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		結 城 翔 太	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
荒 井 千 秋	経理課 事務補佐員		
嘉 門 由 華子	施設課 事務補佐員		
令和5年3月31日	〈辞 職〉	本 庄 美智江	経理課 事務補佐員

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和5年4月1日	〈雇用期間更新〉	ZHAO YAFEI	大学院工学研究科博士研究員
		宇 井 かな	大学院工学研究科 技術補佐員
		佐々木 恵梨菜	大学院工学研究科 技術補佐員
		遠 藤 雅 子	大学院工学研究科 技術補佐員
		菊 地 しずか	大学院工学研究科 事務補佐員
		竹 岡 紀 子	大学院工学研究科 事務補佐員
		柴 田 亜砂美	大学院工学研究科 事務補佐員
		工 藤 ゆ き	大学院工学研究科 事務補佐員
		村 形 明日希	保健管理センター カウンセラー
		杉 浦 郁 子	保健管理センター カウンセラー
		十 二 法 歌	保健管理センター カウンセラー
		加 藤 裕 也	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		鷲 見 恵莉奈	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		遠 藤 友 人	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		板 倉 詩 桜	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		谷 塚 智 大	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		渡 部 翔 太	航空宇宙機システム研究セン ター事務補佐員
		齊 藤 昭 子	希土類材料研究センター 事務補佐員
		曾野部 梨 紗	地域連携人材育成センター 事務補佐員
		佐 孝 まゆり	クリエイティブコラボレーショ ンセンター 事務補佐員
		大 谷 景 子	クリエイティブコラボレーショ ンセンター 事務補佐員
		加 藤 優 里	クリエイティブコラボレーショ ンセンター 技術補佐員
		中 村 恵 子	総務広報課 事務補佐員

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
		藤 平 昌 代	総務広報課 事務補佐員
		板 倉 詩 桜	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		明 石 陸 冬	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		上 原 悠 生	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		佐々木 奏 羽	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		山 崎 朗	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		吉 田 光 希	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		坂 本 光	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		阪 本 薫	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		大信田 美 香	経理課事務補佐員
		里 見 友 美	経理課 事務補佐員
		福 原 由 莉	施設課 事務補佐員
		丁 雪 花	学務課 事務補佐員
		道 林 志 織	学務課 事務補佐員
		永 田 鈴 奈	入試戦略課 事務補佐員
	<b>〈採 用〉</b>		
令和5年4月1日	大学院工学研究科 博士研究員	DEBNATH MITHUN KUMAR	
	大学院工学研究科 博士研究員	BAAR STEFAN	
	大学院工学研究科 博士研究員	BURAPORN PONG SIREE	
	大学院工学研究科 博士研究員	RIKI HENDRA PURBA	
	大学院工学研究科 博士研究員	ZHAO LIJUAN	
	大学院工学研究科 博士研究員	BASHIR TAHIR	
	大学院工学研究科 学術研究員	上 野 香 織	
	大学院工学研究科 技術補佐員（研究推進支援員）	宮 入 奈緒枝	



## 人 事

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
	ロボットアリーナ 事務補佐員（再雇用）	橋 詰 奈緒子	
	保健管理センター 事務補佐員	関 元 美保子	
	総務広報課 事務補佐員	山 形 香 里	
	総務広報課（男女共同参画推進室）事務補佐員	上 西 美 椰	
	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員	小 山 美 玖	
	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員	細 川 懐 生	
	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員	松 岡 佑 真	
	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員	本 庄 美智江	
	施設課 事務補佐員	鳴 海 美穂子	
	研究協力課 事務補佐員	三田村 はるか	

## 訃 報

### 名誉教授

長 島 知 正 (77歳)

本学名誉教授、長島 知正氏は、去る令和5年3月13日(月)逝去されました(77歳)。

ここに、生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、早稲田大学大学院理工学研究科応用物理学専攻修士課程を修了後、昭和49年3月北海道大学助手、昭和55年6月に理学博士(早稲田大学)を授与され、昭和61年4月に本学助教授、平成4年2月同教授、平成22年4月同名誉教授となられ、現在に至っておりました。

専門は計測制御工学。

### 名誉教授

桑 野 壽 (79歳)

本学名誉教授、桑野 壽氏は、去る令和5年3月19日(日)逝去されました(79歳)。

ここに、生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、室蘭工業大学金属工学科を卒業後、昭和41年4月室蘭工業大学助手、昭和59年2月に工学博士(大阪大学)を授与され、昭和62年7月に同助教授、平成5年4月同教授、平成21年4月同名誉教授となられ、現在に至っておりました。

専門は材料工学。

### 名誉教授

後 藤 龍 彦 (75歳)

本学名誉教授、後藤 龍彦氏は、去る令和5年3月25日(土)逝去されました(75歳)。

ここに、生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、北海道大学大学院工学研究科資源開発工学専攻博士後期課程を修了後、昭和54年4月室蘭工業大学助教授、平成9年10月に同教授、平成25年4月同名誉教授となられ、現在に至っておりました。

専門は材料設計工学。

# 学内会議

## 学内各種委員会等の開催

< 2月24日～3月25日 >

**開催日時** 令和5年3月2日(木)  
**会議名** 第11回教育研究評議会

**開催日時** 令和5年3月2日(木)  
**会議名** 第30回役員会

**開催日時** 令和5年3月2日(木)  
**会議名** 第6回企画戦略会議

**開催日時** 令和5年3月3日(金)  
**会議名** 第9回教授会

**開催日時** 令和5年3月3日(金)  
**会議名** 第2回大学院工学研究科委員会博士前期課程分科会

**開催日時** 令和5年3月3日(金)  
**会議名** 第2回大学院工学研究科委員会博士後期課程分科会

**開催日時** 令和5年3月7日(火)  
**会議名** 第31回役員会

**開催日時** 令和5年3月7日(火)  
**会議名** 第1回危機管理委員会

**開催日時** 令和5年3月9日(木)  
**会議名** 第9回大学院工学研究科博士後期課程専攻長等会議

**開催日時** 令和5年3月14日(火)  
**会議名** 第32回役員会

**開催日時** 令和5年3月14日(火)  
**会議名** 第10回教授会

**開催日時** 令和5年3月14日(火)  
**会議名** 第2回大学院工学研究科委員会

**開催日時** 令和5年3月14日(火)  
**会議名** 第3回大学院工学研究科委員会博士前期課程分科会

**開催日時** 令和5年3月15日(水)  
**会議名** 第6回経営協議会

**開催日時** 令和5年3月15日(水)  
**会議名** 第33回役員会

**開催日時** 令和5年3月15日(水)  
**会議名** 第3回国立大学法人室蘭工業大学学長選考・監察会議

**開催日時** 令和5年3月16日(木)  
**会議名** 第12回教育研究評議会

**開催日時** 令和5年3月16日(木)  
**会議名** 第34回役員会

**開催日時** 令和5年3月16日(木)  
**会議名** 第2回国立大学法人室蘭工業大学教育・研究振興会運営委員会

**開催日時** 令和5年3月20日(月)  
**会議名** 第7回学長特命連絡会B

## 学内行事

- 2月25日(土) 一般入試(前期日程)(室蘭、札幌、仙台、東京、名古屋)
- 2月27日(月) 令和4年度室蘭工業大学市民懇談会
- 2月28日(火) 2023年度4月入学大学院博士前期課程入試(第2次募集)(一般・外国人留学生(国内出願)):3月1日)
- 2月28日(火) 2023年度4月入学大学院博士後期課程入試(第2次募集)(一般・社会人):3月1日)
- 3月6日(月) 「アシルトイタによる心と体に響く新しい食の価値共創拠点」第1回ワークショップ
- 3月6日(月) 令和5年度4月入学理工学部一般選抜前期日程合格発表
- 3月10日(金) 2023年度4月大学院博士後期課程(第2次募集)合格発表
- 3月10日(金) HES活動に関わる講演会「学内の廃棄物の分別排出による環境負荷低減」(オンライン)
- 3月13日(月) 第2回コンピュータ科学トップランナーセミナー
- 3月15日(水) HES定期審査
- 3月17日(金) 全学一斉構内クリーン作戦
- 3月20日(月) しくみ解明系領域 高野英明教授最終講義
- 3月21日(火) 令和5年度4月入学 理工学部一般選抜後期日程合格発表
- 3月21日(火) 2023年度4月入学 大学院博士前期課程(第2次募集)合格発表
- 3月22日(水) 北海道札幌工業高等学校との高大連携協定締結式
- 3月23日(木) 令和4年度学位記授与式
- 3月24日(金) 講演会「An Overview of Social-Technical Research Issues in Social Robots」

## 学外行事

- 2月25日(土) G7ゼロカーボンミーティング洞爺湖(洞爺湖)
- 2月27日(月) KNIT共同研究交流発表会(オンライン)
- 3月1日(水) 国立大学協会令和4年度第4回通常総会(東京)
- 3月6日(月) 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題『ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築』公開セミナー(札幌)
- 3月15日(水) 技術セミナー(苫小牧)
- 3月20日(月) 「令和4年度オープンイノベーション機構の整備事業シンポジウム」～産学連携機能の強化・拡充による「組織対組織の本格的な共同研究」の実現に向けて～(オンライン)
- 3月22日(水) 令和4年度北海道プライムバイオコミュニティ推進会議(札幌)
- 3月23日(木) TEAM「ゼロカーボンいぶり」セミナー「胆振地域の未来のエネルギーを考える。」(苫小牧)
- 3月24日(金) KNIT推進会議及び勉強会(オンライン)
- 3月24日(金) 全国ダイバーシティネットワーク幹事会(オンライン)

## 編集後記

---

◆ 学報642号をお読みいただきありがとうございます。新年度に伴い、編集後記をひっそりと再開いたしました。3月23日には学位記授与式が開催され、大学正門横で写真撮影をする卒業生の姿が見られました。令和4年度は2回に分けての開催でしたが、徐々にこれまでの式典風景が戻ってきたように思われます。最後に、今回記事をご提供いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

(Garoon：総務広報課総務広報係、E-mail：koho@mmm.muroran-it.ac.jp)

(総務広報課総務広報係)

---



室蘭工業大学のキャラクター「うろびよん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課  
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷  
電話 0143-47-8308